

(別紙) 第3回市民会議グループ討議(1・2)の概要

グループ討議1

グループ	概要
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての人々が自然エネルギーを活用できるような法律やルールを作る ・ 多様な自然エネルギーを検討する(水力、風力、太陽熱、大気熱(砂漠発電)) ・ 特に風力発電に期待する。費用対効果の検討や資金確保が必要。エアコンの室外機、街頭に設置したプロペラ、ビルの屋根等を活用できないか。 ・ バイオマスによる発電や熱エネルギーの利用を積極的に進める ・ 自家用車の使用頻度を抑制し、レンタサイクルの活用など自転車の利用を促進する ・ ジムの自転車型マシンや自転車競技などを活用して発電ができないか
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通も含め再生可能エネルギーで全ての電力を賄う。行政(厚木市)が創エネに取り組む。その一環として厚木市内の河川や下水を活用して発電できないか。 ・ 2050年には暑さや寒さを利用した新技術の発電方法ができていないかもしれない ・ 法整備・規制により市内の自動車利用を制限する。(ガソリン車のマイカー利用を抑制し、EVのバス等の公共交通が積極的に選択される仕組みづくり) ・ レンタサイクルを促進する。各家庭やバス停など、設置場所を増やす。 ・ 誰でも・どこでもすぐ乗れるグリーンスローモビリティやEVバスなどの導入を進める。EVや電動自転車のバッテリーの軽量化の技術革新も必要。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車ではなくなるべく二輪車など、小さな交通手段を使い、二酸化炭素排出量を減らす ・ 自動車の乗り合いシステムや、個人間での乗り合いなども活発化するとよい ・ マイカー用の駐車場を繁華街周辺(郊外というほど遠くないイメージ)に作り、繁華街等では基本的に公共交通のみとする。地下道や地下街が駐車場用地として活用できる可能性もある。 ・ 注文した品物を自宅配送ではなく駅で受け取るなど、物流を工夫する(輸送基地を駅周辺に置く、鉄道での輸送等)。駅受け取りの促進のため割引制度があるとよい。 ・ バスの路線沿いに施設を誘致し、コンパクトシティを点在させる
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光発電について、共同使用することで設置費用の負担を軽減するなど、さらなる普及促進を図る。高齢者の多い地域の田畑に設置する場合は、JA等の団体が管理を担うことで持続性を担保できる可能性がある。 ・ 太陽光以外の発電として、公共施設のトレーニングマシンで発電する「機能訓練型発電システム」が挙げられた ・ モノレールの設置により交通渋滞を解消できる可能性がある。ただしコストが高く、既存道路や周辺住宅地の再開発が必要となる。

F	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2050 年も厚木市の人口を増やしながらかコンパクトなまちづくりを行う ・ 人口が増加して電気代が安くなればそれが理由でさらに人口が増えるのではないかと ・ シェアサイクルなどで自転車の利用を増やす。環境整備も併せて行う。 ・ 技術開発により EV・蓄電池・EV用充電器をより安価に普及させる。現状は高価で、各家庭で充電環境を整えるコストも大きい。EV は災害時に蓄電池としても使える。 ・ 温泉熱による発電や布のように巻き付けられる太陽光パネルで発電率を上げる ・ MaaS（注・ICT を活用し移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約決済等を一括で行うサービス）の周知が必要。スマホの使い方がわからない高齢者もまだ多い。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・ カーシェアリングやシェアサイクルを促進する ・ 自家用車の走行充電、自分の家の窓ガラスや駐車場などで充電できるインフラ、自転車による発電・蓄電などができるとよい ・ スローモビリティを公共交通機関が入りにくい場所に導入する ・ 路面電車の活用や、モノレールとバスが並行できるようになれば暮らしやすい ・ 高速道路料金を無料化することで料金所渋滞等をなくす。厚木で小型トラックに積み替えるなど拠点化すれば、流通のハブになれる可能性がある。そこで税収を賄うことで、市の渋滞緩和と排ガスの削減を狙う。 ・ ドローン配送を促進する。盗難が懸念されるため、窃盗の厳罰化等の法整備が必要。 ・ 道と車がリンクして一定のスピードで流れるようにする。完全自動運転にも期待。
H	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化石燃料より自然エネルギーの方が発電コストが低いことを周知すると人々の行動を変えられる可能性がある ・ ソーラーシェアリングや農地への太陽光パネル設置を進める ・ 厚木市には森林があるのでバイオマス熱を利用できる ・ 厚木市に電力会社を作る。（民間ではなく厚木市が設立する） ・ 厚木市で物流中継を行う。運んできた貨物を厚木でコンパクトな車両に積み替えるなどして物流負荷を軽減する。 ・ EV の積極的利用を厚木市の政策として推し進める。公共交通と EV のベストミックスを図る。 ・ 歩きやすい街づくりやコンパクトシティ化を進める
I	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低速度でみんなが乗れるグリーンスローモビリティなど、個別ニーズに合わせたスタイルの乗り合い自動車があるとよい。情報インフラを整備し、オンデマンド型など誰もが利用しやすい仕組みづくりが重要。 ・ テレワークやオンライン診療、行政手続き等オンライン化が広がれば、移動自体をなくせる。行政が必要な人には情報端末を配布する。 ・ 脱炭素化のメリットを官民のトップが強くアピールし、イニシアチブを発揮する。官民間でも合意と連携の下に進め、途切れず継承していくことが重要。 ・ こうなりたいと思えるような脱炭素ビジョンを市が掲げることは、魅力的なまちのアピールになり、人口が増えるのではないかと

グループ討議 2

グループ	概要
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネ住宅を増やす。二重サッシ導入やヒートショック防止など、室温対策が必須。 ・ (大量生産・大量消費の抑制のため) ホームセンター等に DIY 商品を充実させる。 ・ 脱プラスチックを進め、プラスチックがなくなった生活を考える。パッケージ類は紙や竹などの自然素材で代替し、衣服は化繊ではなく綿や絹のものを選ぶ。 ・ 衣服のリユース・リサイクルを行う。リサイクル品をブランド化する。 ・ オーガニック食品やフェアトレード農産物を充実させる ・ 地産地消を促進する。現状では売り場が少ない。B 級品にも付加価値を付ける。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ エシカル消費をしたくても、価格が高いことがネックになっている ・ 食と環境負荷について知らないことが多い。食に関する認証制度の周知も必要。 ・ 地元の農産物を販売する場所や時間を拡充するなど、供給側も買いやすい環境づくりに取り組む。市がクーポンを市民に配布するなどの特典も検討する。 ・ 新築以外の既存住宅での断熱や創エネは課題となっている。リフォームのきっかけづくりとしてルール変更が必要となる。 ・ 条例を制定するなどある程度強制力を持って進めることも必要ではないか。初めは反発もあるかもしれないが、始めてしまえば慣れるし、事例次第では市民の増加にもつながる可能性もある。 ・ 通販の商品が翌日に届くなど、過度な便利さに慣れていることを見直していく
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ エシカル消費を消費者に浸透させる。エシカル製品に公認マークを付けたり、対象外品を増税することで差別化したりするなど、選択・購入しやすい仕組みをつくる ・ カーボンフットプリントの可視化を促す必要がある。(レジ袋有料化の時のように、) ある程度政策を推し進めることが効果的かもしれない。 ・ プラスチック製品の使用を控えゴミを減らす。ゴミ排出量に応じた課税制度を作る。 ・ 住宅は個人資産なので全体的な取り組みが難しい面もあるが、窓ガラスにシートを貼って断熱する等の(取り組みやすい)対策もある。また、2025 年から全ての新築住宅等に省エネ基準適合が義務付けられる制度が始まるので期待したい。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラスチックのリサイクルが案外できていない。どの程度の汚れなら許容されるかわからない。生分解性プラスチックは、強度面での課題や、条件により必ずしも理想的に分解されない場合がある。 ・ 自然冷房設備費用に対する補助金制度がほしい。その他、補助金制度のわかりやすい一覧表を周知してほしい。 ・ 牛肉の価格が高いことがきっかけとなって代替肉が流行していくのではないか ・ 若い世代にとっては車の所有は当たり前ではなく、レンタカーの活用など意識の転換が進んでいる。ただし金銭的理由やそもそも車に興味がない等の理由も考えられる。

F	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラ容器削減のためシャンプーや洗剤などは量り売りを利用する。プラ削減は身近なメリットがあるとよいのではないか。 ・ 植物由来プラスチックの開発・普及の必要がある。プラスチックの代替品がほしい。 ・ リサイクルショップやフリマアプリを活用し、衣類の大量生産・大量廃棄を減らす ・ 古い団地を改修し快適に住めるようにする。エレベーターがあれば高齢者や子育て世帯にも住みやすい。DIYを知る機会もほしい。 ・ 住宅の断熱性を高める。熱中症対策としても有効だし、その際に人が介入することで住民特性を把握でき、地域の再構築にもつながる。
G	<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての家に太陽光発電を取り入れたい。自家発電ができれば災害時に役立つ。 ・ エシカル指数の表示は選択・購入のきっかけになる。エシカル商品の減税も有効。将来的には、基準を満たさないものは販売できなくなるようなルールがほしい。 ・ 学校に緑のカーテンやブラインドシャッターを導入する ・ 牛肉の生産・消費による環境負荷はあまり知られていないので、学校で扱う ・ 量り売りはうまくいっていない。専用容器の規格化・販売など工夫が必要。最初は得になる仕組みやデポジットなどお得感を訴求し、徐々に慣れていくことを目指す。
H	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒートポンプ式空調は非常に効率が良く、一人暮らし世帯に向いている ・ 高断熱化した住宅を増やす ・ 家電の購入時に APF（通年エネルギー消費効率）をチェックする ・ 買い物ではマイボトル・マイ容器を使う。量り売りや給水機が増えるとよい。 ・ エシカル消費を意識した店を増やす ・ 衣服は比較的高価で品質の高いものを選ぶことで大量生産・大量廃棄から脱却を図る ・ 製品に関して、サプライチェーンで何が行われているのかを消費者に明確にする
I	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅の断熱は効果が大きい。新築だけでなく改修も補助の対象にすることが重要。DIY 断熱改修ワークショップやモデルハウス体験など、効果の実感を得る機会がほしい。 ・ 太陽集熱器は実際に役立つ。個人負担でなく地域で設置・共有し、インフラ化できないか。ただ古い設備には悪評もある。設備自体を知らない世代も見られた。 ・ エシカル消費について、概念や商品が知られておらず、価格が高く選ばれにくい。アピールや情報の共有、付加価値を付ける、課税・免税による差別化等が必要。消費者の価値観が変わり、エシカル消費がかっこいいという世の中になる必要がある。